

様式3

静岡県公立大学法人

令和2事業年度に係る業務の実績に関する評価結果
(案)

令和3年8月

静岡県公立大学法人評価委員会

第1 静岡県公立大学法人の令和2事業年度における業務実績評価について

静岡県公立大学法人評価委員会は、「静岡県が設立する公立大学法人に係る評価基本方針」（H19.12.5制定）に基づき、令和2事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

1 評価に当たっての基本的な考え方

- (1) 評価を通じて、大学の教育研究及び法人運営の進捗状況等を分かりやすく示し、県民への説明責任を果たしていくものとする。
- (2) 法人の教育研究並びに組織及び運営についての様々な工夫や特色ある取組を積極的に評価するものとする。
- (3) 次期の中期目標・中期計画、法人の組織及び業務運営の見直しの検討に資するものとする。

2 評価方法

- (1) 年度評価は、「全体評価」と「項目別評価」により行った。
- (2) 「全体評価」は、(3)の項目別評価を踏まえるとともに、当該年度の重点的な取組や法人の特性等に配慮しつつ、中期目標・中期計画の全体的な進捗状況を総合的に判断した。
- (3) 「項目別評価」は、法人による自己点検・評価の結果を基に、当該年度計画に定めた項目ごと、年度計画設定の妥当性も含めて総合的に検証を行い、中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況を確認した上で、「大学の教育研究等の質の向上に関する目標」、「法人の経営に関する目標」、「自己点検・評価及び情報の提供に関する目標」及び「その他業務運営に関する重要目標」の4つの目標別に総合的に検証した。

第2 全体評価

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

静岡県公立大学法人（以下「法人」という。）の令和2年度の業務実績に関しては、全体として「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人は、静岡県立大学及び同短期大学部が、社会の発展に寄与する「知の拠点」として、年齢層や国籍を問わず、多様な人材が集まる大学づくりを推進するとともに、地域に立脚した大学であるという認識を深め、積極的に地域貢献に取り組むほか、地域への理解とグローバルな視野を兼ね備えた、グローバル化社会で活躍できる人材育成に努めるなど、本県のみならず、国内外から支持される魅力的な大学となることを目指して計画を策定し、遂行している。

第3期中期目標期間の2年目である令和2年度は、中期計画及び年度計画に基づく数々の目標の達成に向けた取組を進め、成果を挙げた1年となった。

法人の中期目標・中期計画の達成に向けた業務の進捗状況については、「第3項目別評価」のとおり、「**大学の教育研究等の質の向上に関する目標**」、「**法人の経営に関する目標**」、「**自己点検・評価及び情報の提供に関する目標**」、「**その他業務運営に関する重要目標**」の4項目について「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と認められる。

これらの状況と令和2年度の重点的な取組や法人の特性等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価が相当と判断した。

(3) 令和2年度の重点的な取組

ア 各種国家試験への対応について

国家資格試験対策の充実・強化に努めた結果、**管理栄養士及び歯科衛生士国家試験において、5年連続で新卒者の合格率が100%を達成した。**

このほか、**介護福祉士国家試験では2年連続で合格率100%、看護師、助産師国家試験においても合格率100%を達成した。**薬剤師国家試験、保健師国家試験においても目標数値（薬剤師90%以上、保健師全国平均以上）を上回っており、**各種国家試験の合格率は総じて高い水準となった。**（No. 14、15、16、17）

イ 外部資金の獲得について

公募説明会及び相談会の開催など応募の促進に向けた取組を進めた結果、外部資金を 392 件、総額で 1,022,480 千円獲得し、件数及び金額ともに過去の中期計画期間の年度平均を上回ったほか、金額については、7年連続で増加している。

科学研究費補助金については、若手研究者の採択率が全国平均 40%を上回る 62%となった。また申請する教員の割合も前年度の 76.4%から 86.5%に増加している。(No. 51、74)

ウ 困窮学生への支援の充実について

新型コロナウイルス感染症の影響を受けた学生の支援を目的に、学内外に寄付を幅広く呼びかけ、約 660 万円の寄付を集めた。

この寄付金を活用し、奨学金制度の拡充や学生ボランティアが困窮する学生に食材と交流の場を提供する「たべものカフェ」への支援など、迅速な対応を行った。(No. 37)

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ 第3期中期目標期間の2年目となる令和2年度は、国際交流や地域社会への学生の参画等、新型コロナウイルスの影響で計画通りの実施が困難な分野があったが、教職員が一丸となって、安全な学修環境の提供に努めた結果、コロナ後においても活用出来る取組が多く生まれたことを評価する。
- ・ 本来のキャンパスライフを送ることが出来ない状況が続いている。令和3年度は学生の満足度向上に向け、学生支援をさらに充実されたい。
- ・ 県内の公立大学4校が連携し、相互に教育・研究の質を高め、その成果を学生や地域に還元していくことを期待する。

[参考]項目別評価の結果

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
2 法人の経営に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
3 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある
4 その他業務運営に関する重要目標	I 特筆すべき進捗状況	II 順調に進んでいる	III おおむね順調に進んでいる	IV やや遅れている	V 重大な改善事項がある

第3 項目別評価

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

大学の教育研究等の質の向上に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

大学の教育研究等の質の向上に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の66項目中8項目が「**計画を上回って実施している**」、58項目が「**計画を順調に実施している**」と認められた。

これらの状況等を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 国際関係学部では、英語ネイティブ教員による課題解決型授業（PBL）を導入するなど、実践的な英語力の育成を図った結果、TOEIC L&R IP テストの目標スコアを達成した学生の割合が飛躍的に増えた。（No. 22）
- ・ 経営情報学部では学生の起業意識の向上のため、起業家や経営者を招いてのセミナーを行うなど、実践的・体験的な就業教育や、産学官の連携による商品開発、地域の人と学生と一緒に地域を活性化していく試みなどのアクティブラーニングを展開した。（No. 40）
- ・ 薬学部・薬学研究院は、生活習慣病・がん・感染症など重要性の高い疾病の病因・治療・予防に関する研究を推進し、研究成果が当該研究分野で最高水準の国際学術誌に掲載された。（No. 42）
- ・ 経営情報学部・経営情報イノベーション研究科では、コロナ禍で観光業が大きな影響を受けている賀茂地域において、社会人講座の開催、観光業景気動向調査、観光資源発掘の調査研究など、積極的な活動を行った。（No. 45、55）
- ・ 海外渡航が難しい状況の中、「大学の世界展開力強化事業^{※1}」によるオンライン教育（COIL^{※2}）を活用し、海外大学との遠隔授業や学生交流を進めた。また、ビクトリア大学（カナダ）のオンライン英語研修など、新たな方法により国際交流や語学学習の環境を整えた。（No. 62～66）

※1 大学の世界展開力強化事業：日本人学生の留学と外国人学生の受入を行う国際教育連携の取組を支援する文部科学省事業

※2 COIL型教育：オンライン教育手法の進化を国際的な大学間交流に応用した、新しい教育実践の方法

2 評価に当たっての意見、指摘等

- ・ **看護職のリカレント教育の拠点**を目指し「看護実践教育研究センター」を令和2年12月に設置し、令和3年度から特定行為に係る看護師の研修を開始した。今後も現役の看護職の学びの拠点となるよう、教育内容の充実を図られたい。(No. 11)
- ・ **大学院の入学定員未充足**について、各研究科において学生確保のための様々な努力の結果、改善が見られたが、博士後期課程については充足には至らなかった。今後も引き続き**学生の確保に努められたい**。(No. 27)
- ・ 平成29年度から令和元年度まで、出題ミスの原因とする入試ミスが3年連続で発生していたが、令和2年度は、外部の事前点検を導入し点検システムを一層強化した結果、再発を防ぐことが出来た。
 入試ミスは受験生に影響を与え、大学の社会的評価にもつながるため、**今後も入試の適正な実施に向け、組織的に取り組むことを望む**。(No. 29)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 教育	41	0	5	36	0	0
2 研究	12	0	3	9	0	0
3 地域貢献	8	0	0	8	0	0
4 グローバル化	5	0	0	5	0	0
合 計	66	0	8 (12.1%)	58 (87.9%)	0	0

II 法人の経営に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

法人の経営に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

法人の経営に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の 11 項目の全てが「**計画を順調に実施している**」と認められ、これらの状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 戦略的かつ迅速な意思決定を可能とするため、今まで別に置いていた理事職と学長職を兼務とする組織改編を行った。(No. 67)
- ・ 研究不正及び研究費不正防止のため、研究に携わる教職員を対象に研修を行い、**コンプライアンス意識の向上**を図った。(No. 72)
- ・ 自己資金の確保に努め、外部資金について、第 1 期及び第 2 期の計画期間の年度平均を上回る 392 件、総額 1,022,480 千円を獲得した。(No. 74)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 業務運営の 改善	7	0	0	7	0	0
2 財務内容の 改善	3	0	0	3	0	0
3 施設・設備の 整備、活用	1	0	0	1	0	0
合 計	11	0	0	11 (100%)	0	0

Ⅲ 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の2項目全てが「**計画を順調に実施している**」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 進学情報サイトの内容充実を図るとともに、学部ごとに地域や志望度などターゲットを絞ったメッセージ配信を実施するなど、入試広報において効果的な情報発信を進めた。(No. 79)
- ・ コロナ禍で実施を取り止めた夏休み県大ツアーを動画配信によるオンライン県大ツアーに切り替えて実施し、より広範囲に大学をPRした。(No. 79)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 評価の充実	1	0	0	1	0	0
2 情報公開・ 広報の充実	1	0	0	1	0	0
合 計	2	0	0	2 (100%)	0	0

IV その他業務運営に関する重要目標

1 評価結果と判断理由

(1) 評価結果

その他業務運営に関する重要目標の進捗状況は、「**中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**」と評価する。

(2) 判断理由

その他業務運営に関する重要目標について、当評価委員会が検証した結果、年度計画記載の5項目すべてが「**計画を順調に実施している**」と認められ、この状況を総合的に勘案し、(1)のとおりの評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する項目

- ・ 教職員を対象に各部局ごとに実施しているハラスメント防止研修会において、オンライン講義の導入や欠席者に対し録画データを視聴させるなどし、全体で98.8%の高い受講率となった。(No. 82)
- ・ 教職員に対し、法人の次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画や、コロナ禍における働き方改革、育児・介護休業制度等の周知を行い、ワーク・ライフ・バランスへの取組を推進した。(No. 83)

[参考]小項目評価の集計結果

	評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を 上回って 実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
1 安全管理	2	0	0	2	0	0
2 社会的責任	3	0	0	3	0	0
合 計	5	0	0	5 (100%)	0	0

業務実績評価集計表（令和２年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研究等	教育	41	0	5	36	0	0
	研究	12	0	3	9	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	5	0	0
	合 計	66	0	8 (12.1%)	58 (87.9%)	0	0
法人経営		11	0	0	11	0	0
自己点検		2	0	0	2	0	0
その他		5	0	0	5	0	0
総合計		84	0	8 (9.5%)	76 (90.5%)	0	0

業務実績評価集計表（令和元年度）

区分		評価対象 項目数	SS 計画を大幅 に上回って 実施	S 計画を上回 って実施	A 計画を順調に 実施	B 計画を十分 には実施し ていない	C 業務の 大幅な見直 し等が必要
教育 研究等	教育	41	1	0	38	2	0
	研究	12	0	3	9	0	0
	地域貢献	8	0	0	8	0	0
	グローバル化	5	0	0	5	0	0
	合 計	66	1 (1.5%)	3 (4.5%)	60 (90.9%)	2 (3.0%)	0
法人経営		11	0	1 (9.1%)	10 (90.9%)	0	0
自己点検		2	0	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0	0
その他		5	0	0	5 (100.0%)	0	0
総合計		84	1 (1.2%)	5 (5.9%)	76 (90.5%)	2 (2.4%)	0